【錦町】

１人１台端末の利活用に係る計画

１．１人１台端末を始めとするＩＣＴ環境によって実現を目指す学びの姿

本町では、第６期錦町総合基本計画において、ＩＣＴ教育のさらなる推進を掲げ、それにより『錦町の将来を担う人材の育成』を目標としている。

ＡＩなどの技術革新が進む新たな時代に対応するために、学校教育も変化していく必要がある。そのために、ＩＣＴを効果的に活用することで、子どもたちの力を最大限引き出し、次世代の自分の思い描く生活を実現させていくことが求められている。

本町においては、ＩＣＴ機器を効果的・積極的に活用した授業づくりを推進し、児童生徒が基礎的な知識・技術を習得し、発展的な知識を取得しそれらを活用して様々な問題に積極的に対応し解決していく生きる力の育成に努めている。

２．ＧＩＧＡ第１期の総括

　本町では、小学校４年生以下と小学校５・６年及び中学生以上の児童生徒によって現在使用している端末が違う。これにより小学校４年生から５年生に進級した際に、また１から使用方法を習得する必要があった。今回の端末ではそういった課題や学校での影響をなくしていきたいと考える。

通信ネットワーク基盤の整備については、今後はアクセスポイントの更新等を視野に入れ、さらなる整備の充実をはかる。それにより児童生徒が学習支援ソフトやデジタル教科書等をさらに効率的に使用できる環境を構築していきたい。

①経緯と現状  
錦町では、ＧＩＧＡスクール構想に基づき、平成２６～２８年度及び令和２年度に小・中学校の児童生徒に1人1台端末を整備した。この５年間で学習用端末を接続するためのＩＣＴ環境の整備を進めるとともに、教育現場での活用を推進してきた。

②ＩＣＴ施策の実施内容  
・ネットワーク環境の強化：ネットワークアセスメント調査を実施し、その結果を基にインターネットの接続方式をインターネット方式からインターネット分離方式に変更した。これにより、ネットワークの安定性と速度の向上を図った。  
・教育支援の整備：令和６年度中に全ての小中学校に新しい電子黒板及び、電子黒板用ＰＣを購入し、さらに質の高い学習を目指すきっかけ作りができた。また、ＩＣＴ支援員１名程度を配置することで、授業の質の向上に努めてきた。  
・学習活動の充実：整備したＩＣＴ環境を活用することで、児童生徒が情報収集、共同編集、意見共有、ＩＣＴ端末を用いた発表など、さまざまな学習活動を行えるようになった。

③課題   
・教職員間のＩＣＴ活用のばらつき：授業や校務でのＩＣＴ活用頻度に教職員間で差があることが課題として挙げられる。

３．１人１台端末の利活用方策

　　錦町では、ＧＩＧＡスクール構想第２期において、端末を更新し、児童生徒１人１台の端末環境を引き続き維持する。その効果的な利用促進に向けて、以下の通り取り組みを進めていく。

（１）１人１台端末の積極的活用について

本町では、「１人１台端末の積極的活用」の取り組みとして、ＩＣＴ支援員による授業支援を行っている。現在は小中学校４校に対して１人の支援員を配置している現状である。児童生徒のタブレットの操作の仕方はもちろん、機器の年度切り替え作業等も迅速に対応できている。

今後も学校や教職員との連携をさらに強化し、積極的な活用を後押しできるよう努めていきたい。

（２）個別最適・協働的な学びの充実について

　　児童生徒が１人１台端末を活用して、「自分で学び、自分の考えをまとめ、それを相手に伝える授業」「お互いに学びあえる授業」を展開できるように、様々な市町村等の事例を見つけ、それをその校独自で発展していけるよう情報の提供及び支援を行う。

（３）全ての児童生徒への学びの保障について

　　不登校の児童生徒、障がいのある児童生徒や特別な支援が必要な児童生徒に対して、学習支援ツール等のＩＣＴを十分活用することで学習の場を確保できるよう、みんなが学べる環境を提供していきたい。また今後オンライン会議ツールを利用したリモート授業などを利用し、不登校や特別な支援が必要な児童生徒に対し、視野を広くし支援の実施を検討していく。